

2020年 会計431「国際財務報告基準(IFRS)の概要」テキスト 正誤表

ページ	スライド	誤	正
14	27	<p>現行のIFRSでは、のれんは償却を行わず、毎期末及び減損の兆候があるときにはいつでも減損テストを行うことが求められている。また、一旦認識されたのれんの減損は、その後減損の兆候が解消した場合でも、振戻しは禁止されている(のれん以外の資産の減損はそれを振り戻すことが認められている)</p>	<p>現行のIFRSでは、のれんは償却を行わず、<u>毎年</u>及び減損の兆候があるときにはいつでも減損テストを行うことが求められている。また、一旦認識されたのれんの減損は、その後減損の兆候が解消した場合でも、振戻しは禁止されている(のれん以外の資産の減損はそれを振り戻すことが認められている)</p>
22	43	<p>現在の価値(current value)を資産又は負債に適用し、収益及び費用には、それと異なる測定基礎を用いるという対応。その場合、資産又は負債の簿価と収益及び費用に適用した測定基礎を適用した場合の簿価との差額をその他の包括利益累計額として認識(CF.6.85及び,6.86)。</p>	<p>現在の価値(current value)を資産又は負債に適用し、収益及び費用には、それと異なる測定基礎を用いるという対応。その場合、資産又は負債の簿価と収益及び費用に適用した測定基礎を適用した場合の簿価との差額をその他の<u>包括利益</u>として認識(CF.6.85及び,6.86)。</p>